



府中市放課後子ども教室 **けやきっず**
 YSSスタッフ・ニュース 2017-02 号



2017年2月8日
 NPO法人府中YSS
 発行責任者 村山 健

このニュースの目的は、府中YSSが受託した4校のスタッフの皆様にも、事業の状況をお伝えすると共に、研修資料として役立たせていただきたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します
1月に行われました各校のイベントの様子です



1/25.十小「おりがみ教室」



1/25.十小「おりがみ教室」



1/17. 六小「折紙教室」



1/18. 六小実行委員会主催「けん玉検定大会」



1/12.南町小「かるた大会(学童クラブ共催)」



1/23.南町小「おりがみ教室」



1/16.日新小「折り紙教室」



1/16.日新小「折り紙教室」

し とく 知っ得

府中市放課後子ども教室 **けやきっす**
YSSスタッフ・ニュース 2017-02 号

バレンタイン

あなたはバレンタインについてどこまで知っていますか？ 私はよく解らなかったのですが調べてみました、説明が長く解りずらいのですが 一読下さい。



「バレンタイデーにはチョコレート」のルーツ

● 日本では、バレンタインデーは女性から男性へ愛の贈り物として、チョコレートを贈る習慣がありますが、現在の形のバレンタインデーの始まりは、昭和 30 年代(1950 年代)に入ってからようです。以後、多くのことが関係して「バレンタインデーにはチョコレートを女性から男性に」という習慣が定着し、今日のような盛んな行事になったようです。

- ・1958 年(昭和 33 年)2 月メリーチョコレート会社(東京)は新宿・伊勢丹の売り場に「バレンタインセール」と手書きの看板を出した。3 日間で売れたのは 30 円の板チョコ 5 枚と 4 円のカード 5 枚だけであった。
- ・翌年ハート型チョコを作った。「女性から男性へ」という殺し文句を作ったのもその頃だ。
- ・1992 年に聖バレンタイン殉教の地イタリア・テルニ市から神戸市に愛の像が送られた。神戸が日本のバレンタインデー発祥の地と分かったからという。
- ・チョコレート会社「モロゾフ」(神戸)は 1936 年(昭和 11 年)2 月 12 日に、神戸で発行されていた外国人向け英字新聞にバレンタインデー向けチョコレートの広告を出している。

● バレンタイデーは盛んに

昭和 30 年代後半になるとバレンタインデーを積極的に売り出す動きも出てきました。例えば、森永製菓では 1960 年(昭和 35 年)にバレンタイン企画を新聞広告などのマスコミを通して行ない、チョコレートの販売を促進しました。

この時期にはバレンタインデー用のチョコレートをお買い上げいただいた方々を劇場に招待し、景品には当時大変貴重であった腕時計をプレゼントとするという新聞広告もありました。

各社がハート型チョコレートを発売したのもこの時期です。多くのチョコレート会社が「バレンタインデーにチョコレート」の販売戦略を進めていくうちに、昭和 40 年代末から 50 年代にかけて、女性のこころを捉えて徐々に盛り上がり、今日のように盛んな行事になったと考えられます。



参考文献:
日本チョコレート・ココア協会
日本のバレンタインデーより引用
www.chocolate-cocoa.com
バレンタイン

出典:
mochiyasumi
チョコレートの日